

事務事業 No./名 称	■サービス部門 環境-26 し尿処理事業 □支 援 部 門									
主管課	深沢クリーンセンター	関連課	資源循環課・環境施設課							
分野名	生活環境									
目標 (目標値)	環境衛生保持のため、し尿及び浄化槽汚泥等を受入れ、適正に処理する。									
人口等の データ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備 考					
	人 口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)					
	世 帯 数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯						
	事業の対象者数									
運営資源 状 況	決算値(千円)	17,040千円	14,947千円	15,948千円						
	(国・県)									
	(負担金等)	5,270千円	2,247千円	5,362千円						
	(一般財源)	11,770千円	12,700千円	10,586千円						
	人員配置数	4.0人	4.0人	4.0人						
	人 件 費(千円)	33,660千円	34,693千円	35,149千円						
	協 働 の パートナー	委託・許可業者	委託・許可業者	委託・許可業者						
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	50,700千円	49,640千円	51,097千円						
	市民1人当 りの経費(円)	286円	281円	290円						
	対象者1人 当りの経費(円)									
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名									
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)			
各種規制基準の遵守	◎	目標値	100%	100%	100%	100%	100%			
		実績値	100%	100%						

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。				②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。			
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。				④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。			
小事業名	H22決算値	評価 適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)				⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止			
し尿処理事業	17,040千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	し尿及び浄化槽汚泥の放流処理施設の運転及び維持管理								
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要									

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)					
H22年度の課題	・耐用年数を超えている設備があるため、順次更新し、施設の機能を確保する。				
課題解決のための取組	・処理設備に対し、適正な維持修繕を実施し、安定した下水道放流ができた。				
未解決の課題	・なし				
今後の方針	・一般廃棄物処理の性格から、適正かつ安定的な処理が必要。 ・機能を維持するため、修繕計画を立て、適切な維持管理に努める。				
今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	⇒	B	※ □事業完了	課長名 深沢クリーンセンター所長 遠藤 哲

